

# 令和4年度 とりこぼさない 支援を考える プラットフォーム

🍁 活動の足あと 🍁

はじめに

長岡京市では、令和5年度から『とりこぼさない支援体制整備事業（重層的支援体制整備）』が本格実施となります。行政は、制度・サービスによる縦割りの支援から意識を変革し、横断的な体制で複雑化・複合化した課題のある世帯、個人を支援していくことになります。しかしながら、制度・サービスでは対応できない「はざま」と言われる課題は、行政だけでは解決することが難しいと言われています。

「地域に居場所がある」、「必要としてくれる活動・人がある」、「支援者同士が支援のノウハウを共有する機会がある」。そのようなことが制度・サービスの「はざま」にある人を支えていく土壌になるのではないかと私たちは考えています。

その土壌の「豊かさ」を目指して、私たち支援者・活動者がもっと自由に、もっと主体的に「つながる」ことができる場所をつくりたいという思いがこのプラットフォーム構築の出発点です。

このプラットフォームが、今後も継続的に、そして参画する人の手で育てられ、主体的に行われることで、「はざま」の課題にある人への支援がよりよいものになることを願って、この1年間の準備の経過をここにまとめます。すでに参加された事がある人も、これから参加を考えている人も一度、本書に目を通していただいてから、つながりを一緒に考えていけるようになればとても嬉しく思います。

とりこぼさない支援を考えるプラットフォーム  
コアメンバー一同

## ■コアメンバーの紹介

『とりこぼさない支援を考えるプラットフォーム』（以下、『とりこぼ PF』）のコアメンバー会議では、8050 世帯や生活困窮等の複雑化・複合化した課題にある支援の「はざま」に対して、どうすれば支援者それぞれが感じている「はざま」を共有し、どのようにその「はざま」に対応していくことができるのかを一緒に考えていくところから、目指すべきプラットフォームのイメージ作りを行なってきました。コアメンバーには市内の NPO、社会福祉協議会の職員に参画してもらい意見を交わしています。また、重層的支援体制の視点や地域で支えあう仕組みづくりについてのアドバイザーを加え、支援者・活動者による主体的なプラットフォーム構築についての議論をすすめてきました。

### 《コアメンバーおよびアドバイザー講師》

乙訓もも	NPO 法人乙訓障害者事業協会	藤田 晃久
ステージ	NPO 法人こらねっと京都	小松 哲也
あっとホーム	NPO 法人てくてく	柴山 岳博
やよい工房	NPO 法人乙訓やよい福祉会	井上 譲
きずなグループ	(福) 長岡京市社会福祉協議会	山田 日和
福祉なんでも相談室	長岡京市社会福祉課 地域福祉・労政係	林田 文晴
アドバイザー講師	(一社) Wellbe Design 理事長	篠原 辰二

## ■令和4年度 『とりこぼ PF』 会議のあゆみ

### プラットフォーム設置について共感するコアメンバーの呼びかけ

#### 第1回コアメンバー会議（令和4年10月4日（火）産業文化会館 会議室）

- ▶ 「はざまってあるよね」
- ▶ 「プラットフォームって何」

#### 第2回コアメンバー会議（令和4年11月28日（月）バンビオ 特別展示室）

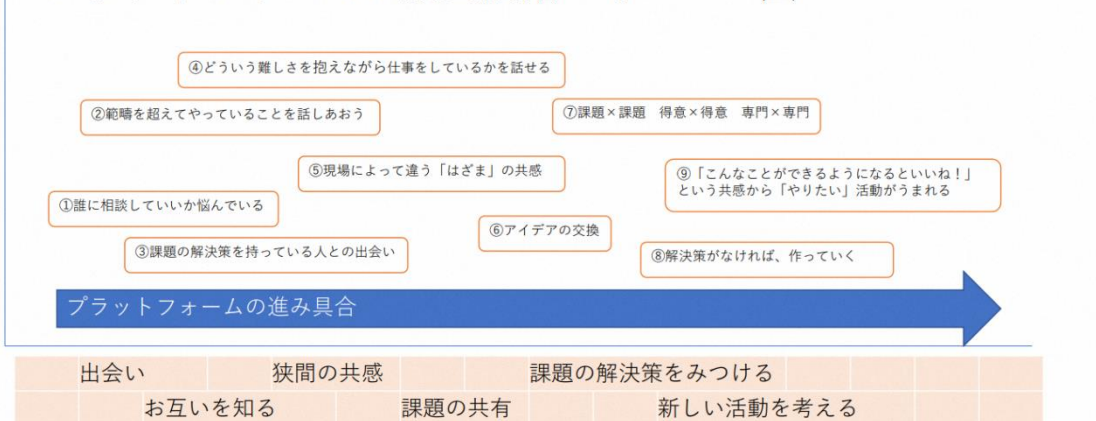
- ▶ プラットフォームのイメージのすり合わせ
- ▶ 重層的支援体制整備事業と PF の関係性について

#### 第3回コアメンバー会議（令和5年1月31日（月）バンビオ 配膳試食室）

- ▶ 参加してもらうために伝えたいこと
- ▶ ワールドカフェのテーマを決める

### とりこぼさない支援をうみだす交流会開催（令和5年3月7日（火）バンビオ メインホール）

## プラットフォームの成長段階 イメージ図



## 第1回コアメンバー会議

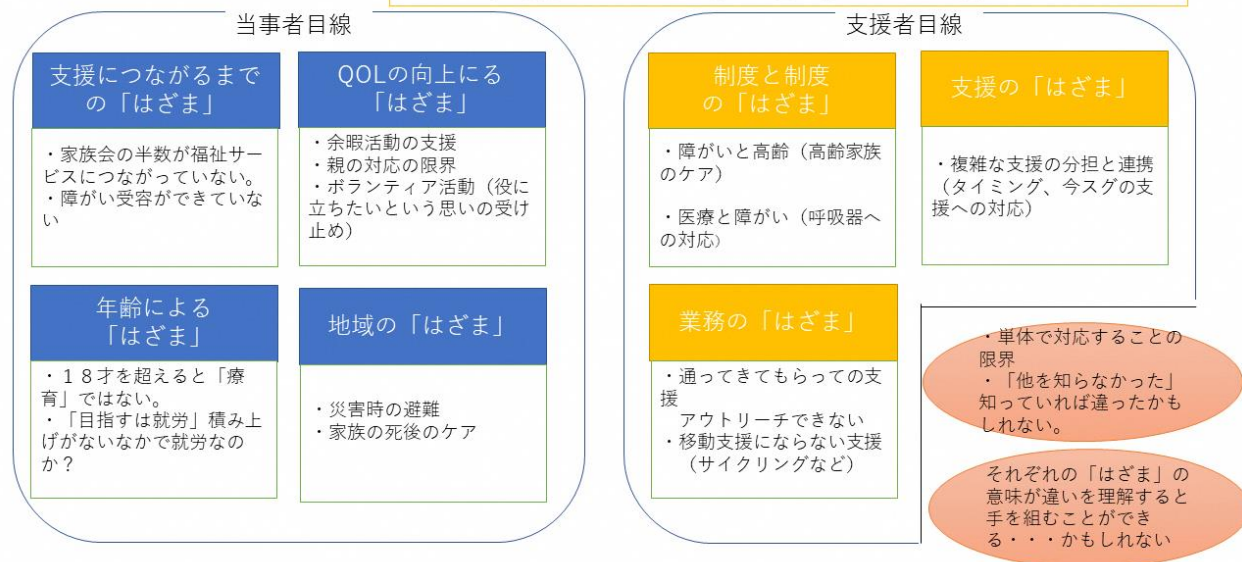
会議では初顔合わせというメンバーもいたので、まず自己紹介と自分たちの行っている業務や支援の内容、自分たちの業務からはみ出して行っている活動の状況などを共有しました。

### ▶「はざまってあるよね」

※「はざま」の分類と共有

コアメンバー間で、認識している狭間について話し合ったところ、それぞれの立ち位置によって感じる狭間が違ってくるのがわかりました。利用者のQOLへの目線や、支援が届きにくい人への目線によって、さまざまな狭間を感じています。

この『立ち位置による違いがある』ということを理解することが大切で、そこを意識しないとPF参加者が持つであろう「私の狭間はこのPFで埋まるのか」という問いに答えられなくなる可能性があります。



コアメンバーそれぞれが考える、感じている「はざま」を思い思いに話し、これまで「居場所がない」「使える制度がない」「人が足りない」「助けてくれる人を（活動を）知らない」状態で、「はざま」になる人を目の前にしている単独の事業者や一担当者が、ずいぶん無理をして利用者のQOLを向上したり、サービスを提供している現状を再確認しました。

では、どうすれば、支援者が、活動者が、利用者が、今の状況より無理をせずに充実した支援を提供・受けることができるのだろうか？プラットフォームをどのように活用すればよいのだろうか？ということ話し合いました。

### ▶「プラットフォームって何」

プラットフォームにはいろんな解釈がありますが、とりこぼさない支援を考えるにあたって、支援者・活動者が気軽に参加しつながれる場とはどんなものなのか。また、どのような姿であり、どのように成長していくことを望んでいるのかを意見交換し、第2回の会議へと検討が続いていきます。

#### 【シノさんのちょっとコラム】

地域における生活課題の解決に向けては、福祉事業所やNPO・ボランティア団体、自治体庁舎内の各部局など、多様な主体間の重層的な連携がカギになります。しかし実際には目の前の業務やサービス利用者への支援に多くの時間や労力が割かれ、更にはそれぞれの領域（業務の範囲や対象）を超える支援にはなかなか踏み込めないのが現状ではないでしょうか。「連携」を生み出すためには自分が行っている活動、そこで大切にしている価値観や課題認識を他者に伝達し、また他者が持つ同様の事柄にふれることが何よりも大切です。第1回目の会議ではメンバーの仕事への熱意や支援の限界、もどかしさなどを伝え合いました。そうした想いに互いにふれられる場が「プラットフォーム」であり、そこでの出会いや情報の交換が後に重層的な支援を生み出すものと考えます。まさにプラットフォームは多様な支援を生み出す基盤であり環境なのです。

Wellbe Design 篠原 辰二



#### コアメンバーのつばやき その1

第1回目のコアメンバー会議。実はちょっぴり緊張して参加していました(笑)

話し合いの中で自分が感じたことは「はざま」にも様々な種類・状況があり、自分が日ごろ感じている「はざま」はほんの一部分なんだとショックを受けたことが印象的でした。

また、福祉職員が手を出しにくい方たちに対するアプローチの方法は大切なキーワードである「つながる」という事が重要なファクターであると感じました。困ってる人にはそれぞれ違ったニーズがあり、そのニーズを共有して整理する。ニーズに対して様々な資源を提供してアドバイスをもらう。その為には資源をつなげる・広げる・進める・蓄える・満たすことが重要で、結果多くの人と出会い、マッチングして解決に向かっていく。そういった事は地域福祉の基本的な事で皆が理解していますが、実践するのはとても難しいこと。

その難しいことを積極的に踏み込んで整えていく雰囲気、「みんなが感じている事を訴え合い、共有・共感し、つながりを深めていく過程」がとりこぼ PF の目指す場所の縮小版のように感じ、今後の活動がどうなるのかとてもワクワクします！

NPO 法人てくてく 柴山岳博



## 第2回コアメンバー会議

### ▶プラットフォームのイメージのすり合わせ

第2回のコアメンバー会議では、自分たちの言葉でプラットフォームの意義や趣旨を説明できる場にしていくための議論を重ね、おぼろげながらも目指すべきプラットフォームの輪郭が徐々に見えてきました。

### ▶重層的支援体制整備事業とPFの関係性について

まず、重層的支援体制整備事業とプラットフォームの関係性に言及し、活動者が求める場を構築していくための呼びかけや伝え方の工夫についての意見を交わしました。

#### PF促進の理由と参加者スタンスについて

なぜ行政がPF促進をするのか

重層的支援体制整備をすすめるにあたって、制度では拾いきれないニーズに対応できる、地域の活動や居場所の創出の必要性を感じている。

しかしそのような活動・居場所の創出は自然発生を待っていても起こるものではなく、活動者同士の交流や支援ノウハウ、課題共有などが活発に行われているという土壌が必要である。

その土壌をつくる場を用意し継続することが、重層的支援体制の充実につながるという考えから

とはいえ、

資源の創出や新しい活動は強制されるものではない。  
ということはコアメンバーで共有しておきたい

よって、

PF参加者には

「自分の活動をより良くしたい」

「つながりを広げたい」

「情報や知識を得たい」

という実利に基づいた意欲・興味を動機づけとして参加してもらえればOK

求めることは主体的な参加のみである。

ひとつめには、プラットフォームは決して参加を強制されるものではなく、それぞれの業務や活動のプラスになる「(人・考え・活動)に出会える場所」であるということ。そして、「課題解決に対するアイデアを提供しあえる場所」として参加者で作り上げる場所であるということ。その上で、プラットフォームが充実すること

とで、結果的に重層的支援体制をバックアップをする形になると考えられ、何よりも参加者の「活動を良くしたい」「つながりを広げたい」という思いを受け止める場所でありたいという意見にまとまりました。

以上を確認し「とりこぼさない支援を考えるPF」イベントの実施にむけた準備を始めることとなりました。

#### 重層とプラットフォームの関係性

▶重層的支援における各事業は課題を解決する場所である。一方、プラットフォームは課題を直接的に解決する場所ではない。

▶プラットフォームが充実(参加者の増加、議論の活発化)することにより、課題に対応するためのノウハウや資源を増やす素地が豊かになり、支援を必要とする人への対応の幅が広がっていく。

#### プラットフォームの姿(キーワード)

「長岡京市でどのような支援が行われているかを知る機会」

「出会いとつながりがある場所」

「(人・考え・活動)に出会える場所」

「課題に対するアイデアが提供できる(してもらえ)場所」

「主体的な関りが求められる場所」

「気軽に参加を。強制されるものではない」



#### 【シノさんのちょっとコラム】

「福祉」を英訳すると「welfare」と「well-being」という2つの言葉が出てきます。「welfare」は人がより良く生きることを可能にするための方法のことで、福祉サービスや福祉サービスを提供する専門職、サービスを運用するための法制度や施設・設備など物理的なものを意味します。一方、「well-being」は人がより良く生きる目的を果たすため、一人ひとりの幸福の獲得に向けた取組み全体のことや尊厳につながる考えです。日本国憲法に照らし合わせると、前者は生存権(第25条)、後者は幸福追求権(第13条)につながります。市内で提供されている各種の福祉サービスの多くは生存権に由来する「welfare」な取組ですが、それだけでは一人ひとりの幸福追求につながる真のニーズは満たされません。重層的支援体制整備事業の「参加支援」や「地域づくり支援」は真のニーズを満たす「well-being」なものであることが大切です。わたしたちの普段の暮らしを支えてくれている多様な人や機関がプラットフォームに参画してくることで、「well-being」が広がり、やがて長岡京に暮らす人々幸福が高まるのかもしれません。

Wellbe Design 篠原 辰二

#### コアメンバーのつぎやき その2

私たちは、目の前に困っている人がいたら「どう解決しよう?」と解決に必要なピースを探して埋めてきました。そんな今、この先は?と考えたとき「もっと沢山の種類のピースが必要ではないか?」「もしかしたら今までのように規定の制度だけでは埋められないものが出てくるかも知れない」と不安になります。

「もっと大きく視野を持ち、もっと広くいろんな方とつながり、知識や情報を交換できれば」と考えたときこのプラットフォームの必要性を強く感じました。いうなれば、地域共生社会という強固な土台を石垣で作ろうとするように、各々がハマるピースを探すのではなく、石を掘り起こしたり、作り出したり、こんなにあるよと交換したり、いろんなものを試してみる。そんな仲間と出会いたい!そんな気持ちです。

NPO 法人こらぼねっと京都 小松 哲也

### 第3回コアメンバー会議

#### ▶交流会に参加してもらうために伝えたいこと

重層的支援体制が始まるから活動者が集まるということではなく、それぞれの日々の仕事や、より良い支援のためにつながるための「出会いの場」がプラットフォームであり、そのプレイベントである交流会は「出会いとつながりの体感をしてもらう」ことを目標として、そのことを伝えるためのチラシ作成をしようということになりました。



あたらな  
つながりができる！

様々な暮らしを  
ささえるヒント！

## とりこぼさない 支援をうみだす 交流会

人・考え・活動に出会える場所！

あなたの活動が、  
きっと何かを生み出します

### 『とりこぼさない支援を考えるプラットフォーム』 プレイベント

日 時	プログラム
令和5年 3.7 火 14:00~15:30	【第1部】(20分) 長岡京市のすすめる 重層的支援体制整備について
場 所	【第2部】(60分) 「みんなでつながるワーク」 ワールドカフェ
長岡京市 中央生涯学習センター 3階メインホール	【放課後タイム】(FREE) お時間のある方は、さらにつながりを深めましょう

問い合わせ・申込 長岡京市社会福祉課 ☎075-955-9516



### 誰もが活躍できる地域共生社会をめざして

制度の抜抜にある課題や、生活困窮等の生きづらさに対して包括的支援体制を構築するために  
令和5年度から重層的支援体制整備事業を本格的に実施します。

▶重層的支援体制整備事業とは  
困難や生きづらさの多様化によりこれまでの相談機関では、対応が困難な相談に対して、垣根を超えた  
(包括的な)支援体制を作ります。分野をまたいだ「属性を問わない相談支援」、人と人が繋がりを実現し  
支える「社会参加支援」、その地域となる「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施します。

参加支援 相談支援 属性を問わない相談支援

地域づくり

地域づくりに向けた支援

### とりこぼプラットフォームは、下支えの「つながりづくり」

専門職だけで地域共生社会の実現はとて難しいことです。  
地域のたくさんの方の事業者、ボランティア、活動者同士が活動につながり、それぞれの「活動の充実」や「可  
能性の広がり」を実感できる場が必要です。  
「とりこぼプラットフォーム」は、単独では困難なことに、お互いがつながりそれ以上の力  
を生み出すための主体的な「場所」です。

「自分の活動を良くしたい」「つながりたい」「知識や情報を得たい」  
そんな思いをお持ちの方、一緒にプラットフォームを作っていきますか？

これまで議論してきた、重層的支援体制とプラットフォームの関係性については、参加を継続してもらうことで理解を促進しながら支援の輪を広げていくことを交流会以降の目標としました。

#### ▶テーマを決める

みんなでつながるワークとして位置付けたワールドカフェのテーマについては「あったらいいな（実現したいこと）」をいろんな人と話し合うことで、足りないと感じているものや、つながりたいと思っ  
ている相手、これから取り組みたいと考えていることなどを自由に表出してもらうこととしました。

### 参加者に感じてほしいこと ワールドカフェテーマ設定

(コアメンバーの意見から)

- ・ここ（コア会議）に来て、いろんな人・活動があるんや、みんな頑張っ  
てるんやということが知れただけでも収穫だった。
- ・「はざま」をみんなで話して、自分が思っている以上の気づきがあった。
- ・これからも、まだまだ知らないことを知れそうという感覚を感じてほしい

⇒プラットフォームの参加者にもそういう体験をしてほしい

「感じているはざま」「実現したいこと」を引き出したい

#### コアメンバーのつがやき その3

こままでの3回のメンバーとの交  
流を通して、このプラットフォームの  
もつ可能性が大きいことに気付か  
れたと同時に、これから参加して  
くださる方々にとって良かったと感  
じてもらえる場所になればと思い  
ます。

様々な業種、団体、活動者の方と  
出会い、繋がることで可能性が拡  
がるヒントになるワールドカフェに  
なれば「大成功！」と思って準備にとり  
くんでいました。

いま振り返ると、とにかく、「どん  
な人とつながるのか、どんな話がで  
きるか、」が楽しみで仕方がなかつ  
たように思います。そんな気持ちで  
ほかの方にも参加してもらえよう  
と思います。

NPO 法人乙訓やよい福祉会  
井上 譲



## とりこぼさない支援をうみだす交流会

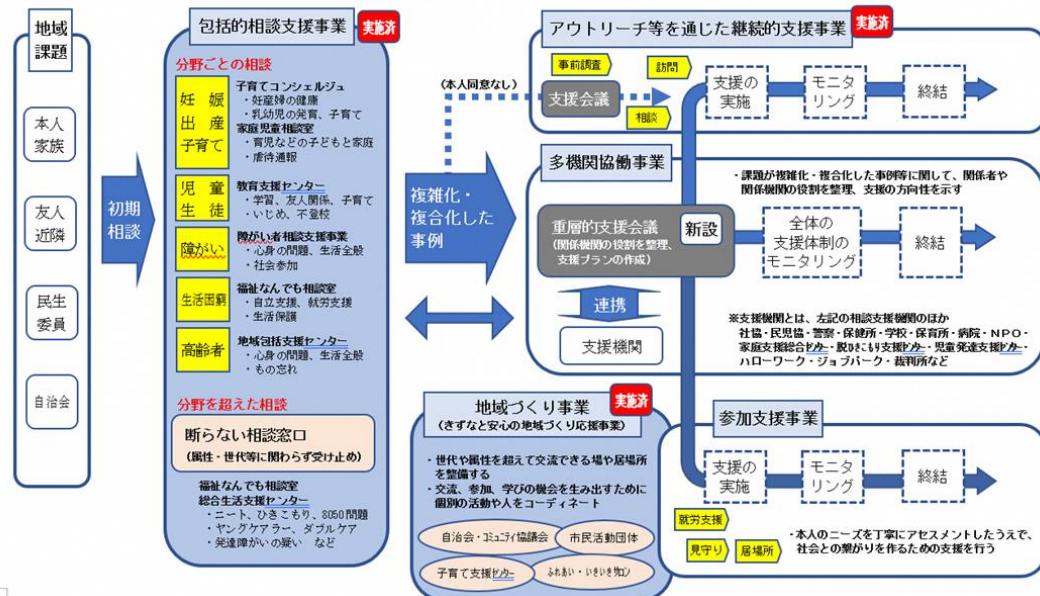
交流会では、長岡京市が令和5年度から本格実施する『とりこぼさない支援体制整備事業（重層的支援体制整備事業）』の概要を最初に共有したあと、ワールドカフェでの交流を中心に、できるだけ参加者同士が対話を楽しみ、「つながり」を実感してもらうタイムスケジュールとしました。

まず、長岡京市福祉政策室より、概要図とこれからの支援体制についての口頭説明をおこないました。ポイントは以下のとおり。

- ・市民や支援者からの相談はこれまでどおり既存の窓口で受ける。制度ごとの縦割りを横断的に連携させるための多機関協働事業にコーディネーターを設置すること。
- ・多機関協働事業は、各支援関係機関等からつながった事例（雑化・複合化した支援ニーズを有し、様々な課題の解きほぐしが求められる事例）等について、会議等を開催し、役割分担や、支援の方向性の整理といった、事例全体の調整機能の役割を果たすなど、いわば支援者を支援する役割を担うこと。
- ・制度間で横断的な連携ができたとしても「はざま」の課題は必ずあるので、地域の受け皿や参加の機会、これからさらに必要であること。
- ・行政、専門職だけでは対応できないことについて、本日の参加者や地域住民のご協力も得ながら、相談支援・参加支援・地域づくりの取組を一体的にすすめていきたいこと。

### 長岡京市とりこぼさない支援体制整備事業（重層的支援体制整備事業）の概要

- 地域住民の複雑化・複合化したニーズに対応する断らない包括的な支援体制を整備するため、相談支援（包括的相談支援事業・多機関協働事業・アウトリーチ等を通じた継続的支援事業）、参加支援事業、地域づくり事業を一体的に実施するもの。
- 関係機関と連携を図りながら、見守りや伴走による支援をコントロールする重層的支援会議を担う「くらし連携担当」を新設する。



### 【シノさんのちょっとコラム】

わたしたちは日ごろから様々なコミュニケーションを取っています。他者との意見の交換場面では、互いの情報を交換し合う「会話」の場面や、テーマにあわせて意見のすり合わせを行う「議論」の場面、そして互いの価値や想いを聴きあう「対話」の場面など、その場の目的に合わせた方法をあまり意識せずに行っているかもしれません。日ごろの業務や支援実践の中では利用者や家族との「会話」や職員間あるいは専門職同士で行うでの支援方針の「議論」が多く行われていますが、「対話」を行う場面は少ないのかもしれません。この交流会では長岡京で人を支援する活動をしているという共通項を持った参加者が、互いの活動を知り合うとともに、個々の想いを受け止め合うことを目的に「対話」を意識した時間を過ごしていただきました。知っているようで知らない支援機関や支援者をしっかりと理解し、また、自分自身の活動や想いを知っていただき、認知してもらえる場になったものと思います。たった1時間程度の対話の時間が、この先、地域生活課題を抱えた住民の人生に影響を与えるような大きな支援につながるかもしれません。

Wellbe Design 篠原 辰二



## ▶みんなでつながるワーク ワールドカフェ 『私が思う あったらいいな ～自己紹介を添えて～』

市内で活動する専門職やボランティア約50名が集まり、Wellbe Design の篠原さんの進行により、第2部の「みんなでつながるワーク」を開催しました。各テーブルの皆さん、自己紹介を添えながら、自分たちが活動する中で、こんな制度や取り組みがあったらいいなと思うことを言葉にし、時間ごとにメンバーを変えテーブル単位で交流することができました。

### ▶どんな声が聞こえてきたか

「居場所をつくりたい」、「居場所が必要だ」という声や、「地域にない活動は自分たちで作るしかなかった」という声、「自分の得意をいかした活動がしたい」という声などが聞かれ、立場の違うそれぞれの考えていることを知る機会となりました。

#### さまざまな参加者

社会福祉士、ケアマネジャー、社労士、薬剤師、高齢、障がい、教育、防災、就労支援員、ボランティアコーディネーター、居場所づくり、ひきこもり支援、学習支援、フリースクール、御用聞きサービス、ボランティア団体など

#### どんな声が聞こえてきたか

##### 「居場所」

求める声、作りたいという声が多い

- ・定義はそれぞれ、多様な居場所が求められている
- ・ゆるやかな（規範や常識に縛られない）つながり
- ・居場所に資源を集めたい！（図書館、BAR、往診など）

##### 「はざま」

制度のはざまと、つながりを自ら拒否してしまう人のはざま

「地域貢献」「意外な活動」「365日居場所」「サロン精神科往診」

##### 「医療は近いが福祉は遠い」

病院に行くと病院には居場所があるが、地域に戻ったときに共感してくれる人がいない⇒自分たちで（活動を）やらざるをえない。



実施後のアンケートからは

「ざっくばらんな話ができた。」、「はじめての方にも出会えてよかった。」、「様々な人から意見を聴けて貴重だった。」「新しい発見、発想、あらゆるステークホルダーの共通言語があった。」

などの感想がありました。

参加者は「出会い」「つながり」を体感をし、プラットフォームづくりのプレイベントとしての成果は得られました。しかし、大事なものはこれからだと考えています。

### ▶これからのプラットフォーム

このプラットフォームは、支援者や活動者同士がつながる場、最初の出会いの一押しをする下支えの場です。その必要性は、このプレイベントを実施することによって再確認できました。日頃感じている課題やひとりでは困難なことに対して、お互いがつながりそれ以上の力を生み出すための主体的な場所を目指して、次年度も継続していきます。



#### 今後のプラットフォーム

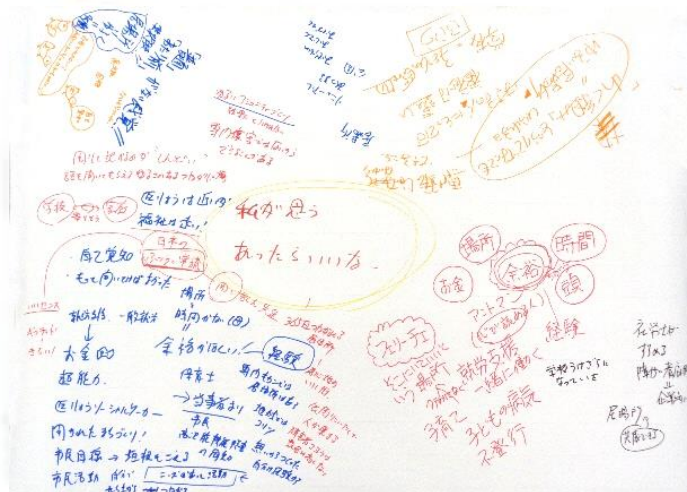
##### 最初の出会いの「一押し」 手を取り合うまでの「一押し」

今日の出会いを一過性のものにしないために

- ・テーマ別のワールドカフェを企画
- ・参加者からも企画、希望を出してもらって主体性を上げる

「こないだは どうも！」でいつも再開できる人を増やそう





- ・とりこはさない支援を考える  
プラットフォームコアメンバー
- ・長岡京市社会福祉課